

尼崎市スポーツ推進審議会 議事概要  
(平成 28 年度第 2 回会議)

- 1 開催日時 平成 28 年 11 月 8 日 (火) 午後 3 時～4 時 10 分
- 2 委員出席状況 出席委員 8 人 欠席委員 2 人
- 3 傍聴者 なし

4 議事概要

- 議題 1 審議事項 平成 29 年度主要事業について  
2 報告事項 尼崎市スポーツ推進計画 (第 2 期) 策定の取組について  
配付資料：平成 29 年度主要事業 (案)  
尼崎市スポーツ推進計画 (第 2 期) 策定の取組について (案)

<審議事項「平成 29 年度主要事業 (案) について」>

委員 誘致大会の軟式野球は社会人野球か。

事務局 そのとおりで、プロではない、アマチュアの軟式野球大会である。

委員 先日、行われた「あまがすきハーフマラソン」について、主催者である尼崎市による事業の検証や検討について説明を聞きたい。

事務局 実行委員会のグループ長が集まり、反省点を挙げた。参加者からの批判もあったが、バスの運行数が適切ではなかった。また、トイレの数が足りなかった。運営上の問題としては、最初に走る 10 km コースのスタートを遅らせたので、後のコースのスタートが順次ずれていったが、交通規制解除時間は基本的には変更できなかった。このため、最後のハーフコースの関門のところでランナーが詰まり、本来第 5 関門へ行くべきところが第 4 関門で切り上げたランナーが多数いた。その結果、関門にひっかかったランナーの収容のバスがあふれてしまった。以上のようなことが反省として挙げられていた。

委員 学校開放事業について、スポーツクラブ 21 へ移行ということだが、全面的に移行するのか。

事務局 スポーツクラブ 21 の現状は、各クラブごとに運営状況が異なっている。また、現在の学校開放事業自体も学校によって、運営の仕方が微妙に異なっている。一斉に実施することは難しく、まずはスポーツクラブ 21 のモデルを 1 校選び、今のシルバー人材センターへの委託は変えずに、スポーツクラブ 21 に運営試行してもらい、どういう方法がよいのか、どういう問題を解消しないといけないのか、見出したい。

委員 学校開放が全面的になくなって、スポーツクラブ 21 になるのか。

事務局 学校開放がなくなるのではない。現在、学校開放事業については一部、学校開放運営委員会が運営を担っているが、大半はシルバー人材センターが運営している。その部分をスポーツクラブ 21 で担えればと考えている。

委員 具体的には施設管理と利用予約を担うのか。

事務局 利用の予約、利用調整、活動している間の施設管理が中心になる。どこまで担ってもらうことが可能なのか、その点を見極めたい。スポーツクラブ 21 に担ってもらうことになれば、学校開放運営委員会はどうするのかという話にはなると思う。学校開放運営委員会を変えようという考えはないが、スポーツクラブ 21 にどのような役割を担ってもらえるか、それは考える必要がある。支障や影響があるようなら、考えていきたい。

<報告事項「尼崎市スポーツ推進計画（第 2 期）策定の取組について」>

事務局 「尼崎市スポーツ推進計画（第 2 期）」の実際の審議期間としては概ね 2 年間、平成 30 年度と 31 年度を取っており、その準備作業として来年度、アンケートを実施したい。アンケートを実施するにあたり、小委員会や審議会で意見を頂きながら進めていきたいので、29 年度は作業を考えている。

委員 市民アンケートは前回と同様、全市調査になるのか。

事務局 そのとおりで、無作為で 3,000 人くらいに実施できればと考えている。プレアンケートは軽易なものなので、300 人くらいで、全市調査ではなく、地区体育館で配付したりして、回答をいただけたらと考えている。

委員 3,000 人はどんな形でアンケートを取ったのか。また、どれくらい回答があったのか。

事務局 郵送し、回答は 25%より少し少なかった。もう少し回答数がないと、アンケートが市民の傾向であるとは言い難い。前回の反省として、質問の量や「アンケートを送りましたが、どうでしたか」というハガキを送れなかったことがある。それも回収率が低くなった原因かと考えているので、次回はそのような点もよく考慮したい。

委員 全市調査の回収率としては非常に低いわけではない。どこも大体 30%くらいである。確かに多いとは言えないが、今回 40%も達成できればすごいことである。回収率は上がった方が良いが、ハガキでのリマインドもだが、回答者に利用券であるとか、体力テストしますとか、何かインセンティブがあると良いのかもしれない。アンケートに答えないということも、ひとつのスポーツに関する関心の低さを示しているとも受け取れると思う。尼崎市のスポーツをよくしようと市民がどれほど関心をもってくれるか、ということも回収率からわかるような気がする。

事務局 スポーツをしない人の意見も聞きたいので、あえて無作為で前回アンケート

を実施した。その分、どうしても関心の少ない方にもアンケートが届くので、回収率が低くなる。

<その他>

委員 日本臨床スポーツ医学会に出席し、非常に驚いたことは、女性の参加がとても多かったことである。シンポジウムや一般演題のセッションにおいても、女性の座長が多い。会場には乳母車も見られた。この1~2年で増えた気がする。安倍内閣の施策を反映したものか、女性の社会進出が背景にあるのではないかと感じた。女性の社会進出が進めば進むほど、アフター5に女性が利用してもらえるようなスポーツ施設をという極論ではあるが、そのような夢を持って帰ってきた。

委員 先日、リオのメダリストを呼んで、柔道フェスタを実施した。子どもたちにも教えるが、本当のねらいはお母さん方、女性であった。お母さん方に興味を持ってもらえたら子どもにもやらせるだろうということで、メダリストに足を掛けて投げるというプログラムをやってみた。お母さん方は必死になって投げようとしていた。スポーツに興味を持たせるためには、長い目で見ると、子どもたちになるのかなと思う。女の人、特に子育て世代がスポーツを好きになると子どもはついてくる。その子どもたちが、やがてスポーツを好きになるのかなと。20~30年先も考えるなら、そういった人をターゲットにしたプログラムも必要かと思う。

以上